

なると金時 台湾で販売

地域商社「基」 販路開拓へPR

730^キ日完売

徳島県産食材の輸出を手掛ける地域商社「基」(徳島市)が18日、台湾・高雄市の百貨店「漢神アリーナ」で、なると金時の販売会を開いた。

店内にブースを構え、なると金時500g入り1袋を199台湾元(約740円)で販売。フライドポテトの実演販売も行い、上品な甘さやほくほくとした食感などの特徴をPRした。基でインタ

ーショップに取り組んでいる徳島文理大と立命館大の学生各1人も参加し、来店客に商品を勧めた。

28日まで1日間販売する予定だったが、用意した730キが5日間で完売した。

今回販売したなると金時は、県内の若手生産者でつくる生産販売会社「農家ソムリエズ」(徳島市)が栽培した。昨年、台湾で開かれた四国物産展に参

加して好評だったことから、今年は単独の販売会を企画した。

基の端村圭社長は「フライドポテトを食べた後、芋を買って行く人が多かった。今後海外の販路を拡大して、徳島をPRしたい」と話している。

11月5～18日にはシンガポールの「高島屋シンガポール店」で開かれる日本食材の物産展にも出展する予定。なると金時6キを販売する。



基が台湾のデパートに設けたなると金時の販売ブース(高雄市内) (同社提供)

(濱岡幸宏)